

小唄流し踊り 来年祭りで

八学短大部、八工大生 思い込め発表会

八戸

郷土の文化に親しもうと、授業で八戸小唄流し踊りを練習している八戸市の八戸学院大学短期大学部幼児保育学科と八戸工業大学感性デザイン学部創生デザイン学科は17日、それぞれの大学内で発表会を行った。



持参した浴衣に身を包み、笑顔で踊る学生たち＝八戸学院大学短期大学部

八戸七夕まつりの前夜祭を彩る催しとして、毎年7月に開かれてきた八戸小唄流し踊りは、今年は新型コロナウイルス感染症防止のため、七夕まつりともども中止になった。八学短大部は2008年から踊り手として催しに参加。八工大も今年から加わる予定だった。晴れ舞台での披露はか

なわなかったが、学生たちは所作一つ一つに思いを込めて踊った。八学短大部では、1年生約80人が体育実技の授業の一環として取り組んできた。同日は、浴衣姿の学生たちが列をなし、自身たちが手作りした吹き流しやくす玉などで彩られた学生ホールで滑らかな踊りを披露した。小山田淑乃さん(18)は「習得に時間がかかった

振り付けをスムーズにこなすことができたのでうれしかった」と話した。

一方、今年から地域文化論のカリキュラムに八戸小唄流し踊りを盛り込んだ八工大。1～3年生約30人が4グループに分かれて踊った。取り組み始めたころ悪戦苦闘していた足運び、振り付けにあるカモメや波などの細やかな表現も難なくクリアしていた。

西方啓徳さん(20)は「八戸に住んでいながら、初めて触れる踊りは新鮮だっ